



スタッフの森誠氏、今井眞裕氏、溝口美穂さん、『平成建機』の湯川貴之氏を交えて記念撮影

家は建てて終わりではない—— 大工として培った経験を活かし 真摯に家づくりと向き合う

「未来を考える工務店」として、地域密着で家づくりを手掛けている『岡谷工務店』。資金計画から設計、施工、アフターメンテナンスまでトータルでサポートし、生涯にわたって快適に、楽しく暮らせる家を提供している。現在は高気密・高断熱のスーパーウォール工法の家づくりが顧客から高い評価を得ているという同社を、本日はタレントのつまみ枝豆氏が訪問。岡谷社長にインタビューを行った。

——早速ですが、岡谷社長のこれまでの歩みからお聞かせ下さい。

ここ和歌山の出身です。学生時代からパンクバンドとしての活動に傾倒していて、短大を卒業してからは自分たちでレコードを制作するように。それから一念発起して上京したんです。2年ぐらい東京で過ごした後、地元に戻ってきました。大学では測量を学んだので、こちらに帰ってきてからはバンド活動の傍ら、建築関係のアルバイトをしていたんです。そこから大工になろうと思って、地元の先輩がお世話になっていた親方のもとに弟子入りしました。

——大工さんに転身されたのは、何かきっかけがあったのでしょうか。

決して裕福とは言えない家に育ちましたが、親が苦勞してやっとの思いでマイホームを手に入れたんです。ある日、自宅にいた時にぼんやりと天井を見ていると、足跡が付いているのを発見しました。おまけに床も音が鳴っていて、傾いているんじゃないかと思うようになりました。以前の自分なら気にも止めないようなことでしたが、建築業のアルバイトで知識がついたこともあり、気になって仕方がない。それで色々な方に相談してみたら、欠陥住宅じゃないかと。

——せっかく親御さんが手にされた夢のマイホームが欠陥住宅だったとは、ひどい話ですね。

ええ。当時はバブルのころで、実家のような欠陥住宅は少なからず存在していたようです。それで、私の心に火がついて、大工になろうと決意しました。そこからバンド活動も続けながら、地元の先輩がお世話になっていた大工の親方に弟子入りしたんです。「人は足りているから」と断られましたが、無理を言って弟子にさせてもらったんですよ。

——その熱意、行動力には脱帽です。腕を磨かれていく中で、独立したいと思うようになったのですか。

はい。朝は早いし夜は遅いし、ハードな仕事ですが、やればやるほど面白みを見出すことができました。徐々に自信も出てきて、次第に自分の力を試してみたいと思うようになったんですね。それで大工の世界に飛び込んで5年目ぐらいから独立を考えるようになり、その後は3年ほどお礼奉公しました。

——では、トータルで8年ほどお勤めをされて独立された。独立にあたっては、不安はありませんでしたか。

全くありませんでした。下請けで入ったので、ありがたいことに独立当初から仕事はありましたし、自分の思うように自由でできることが嬉しかったですね。最初は私一人、個人事業からのスタートで、次第に多くの依頼をいただくようになりまして。手掛ける業務の範囲が広がってきたこともあり、工務店として新たなかたちでスタートを切りました。

——着実に信頼と実績を重ねてこられたことが窺えます。

はじめのうちは自社で職人さんを抱えていましたが、私と同じように自由に仕事をしたい人が多くて（笑）。当社が契約を結んだ物件を、職人仲間をお願いして施工を手掛けてもらっているというスタイルです。法人にしてからでは6年目になりますが徐々に従業員も増えて、現在のかたちになったんですよ。

——創業からこれまでを振り返ってみていかがですか。

独立時から前だけを見て走り続けてきて、今はやっと落ち着いたという感じです。考えるよりもまず行動するタイプなので、ほとんど立ち止まることなくここまで来ました。そしてふと気がつけば良いメンバーが集まってくれていたんです。今は信頼できる仲間が揃っていて、とても心強いです。ただ、ここで気を抜くことなく、まだまだ前に進んでいきたいと思っています。

——素晴らしい姿勢だと思います。今、特に力を入れていらっしゃる事業はありますか。

はい。スーパーウォール工法による「100年住宅」に力を入れています。高性能なスーパーウォールパネルで家を包み込むことで、高気密・高断熱・高耐震を実現し、安心・安全、快適、省エネの全てを実現する住まいです。家を建てた後、どうすれば光熱費がかからなくなるだろうかと考え、20年以上の大工経験を重ねた上で、この工法にたどりつきました。坪単価は高くなりますが、光熱費を削減できますし、長く住み続けることができる。長い目で見ればお得ですし、自信をもってお勧めしています。

——お客様の評判はいかがですか。



代表取締役
岡谷 憲吉

お陰様で多くの方に喜んでいただいています。家は建てて終わりではありません。私たちが携わった以上、ずっとお付き合いを続けていきたいと思っています。その中でお客様と真摯に向き合い、コミュニケーションを大切にしていきたいですね。

——ずっと寄り添ってもらえると、それなら安心だ。最後に、今後の展望はいかがでしょう。

従業員全員で海外旅行に行くことが最近の目標です。そして、従業員には「ここで働いていて良かった」、お客様には「ここで建てて良かった」と言ってもらえる会社になりたいですね。

(2021年2月取材)

Pick up the story

寄り添い、共につくる家

▼「家づくりのゴールは、家を建てることではない」と語る岡谷社長。家は一生に一度の高い買い物であり、家が完成してからの長い年月を幸せに暮らすためにも、慎重に考えながら「お客様と一緒に家づくりをしていく」というスタンスを大切にしている。

▼家づくりの過程では、お客様のニーズが変化することも多い。「もっとこうしたい」という欲も出てくる。そんな声にも真摯に耳を傾け、お客様の理想に限りなく近い家を目指しているという社長。しかし、予算の関係でどうしても実現できないケースもある。大工時代は「ちょっと棚を付けてよ」「ここに手すりが必要」と言われたら、サービスで対応していたこともあったというが、企業としてやる以上はそれでは示しがつかない。「できること」と「できないこと」の線引きを明確にし、できる範囲でのサービスは継続していきたいとのこと。「お客様に寄り添いたい」という想いは決して変わることはないのだ。



タレント
つまみ枝豆

「対談に同席いただいた森さん、今井さん、溝口さん、湯川さんに岡谷社長のお人柄を伺うと、『行動力がある』『優しい』『良い意味で距離が近い』とのこと。社長は後先を考えずに突っ走るタイプだそうで、ブレーキをかけてくれるのが今井さんだそう。また森さんとは10代からのお付き合いで、溝口さんは会社の舵取りに欠かせない存在。チームワーク抜群でした！」 つまみ枝豆・談

Anchor special interview with

株式会社 岡谷工務店

和歌山県和歌山市上黒谷 83-5
URL : <https://www.okaya-kk.jp/>

